淀長立見席 17

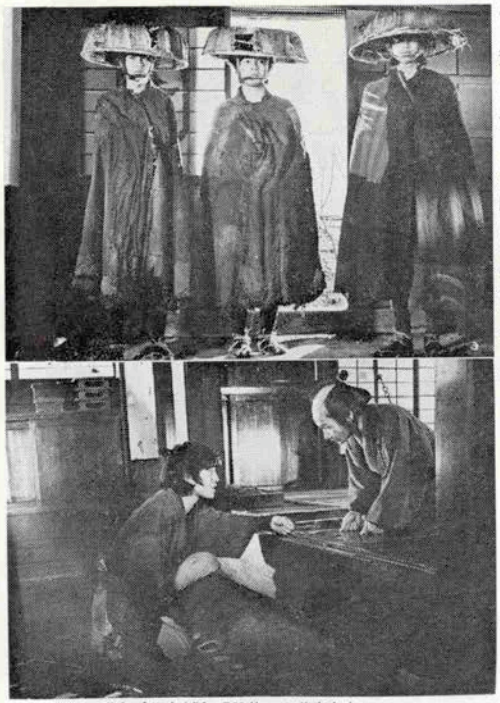
西洋の股旅や日本の股旅に思うこと

淀川長治〈映画評論家〉

市川崑の「股旅」を見ていると、若者が一枚のてぬぐいを三つにきちんとたたんだのを、やおら懐中からとり出して、げんかん口のところに、しゃがんで、棒読みの調子で仁義をきる。するとこれを受けたその家のあるじがまた棒読みの調子でこれに受けこたえする。

その若者の汚いこと、そのなにになに組かわからぬが、その家（おんぼろ）の貧しげなこと。さらにその若者の一枚のてぬぐいは、うやうやしくそのあるじが頂いてみせて、再び若者が受け取った己れの懐中に入れる。若者はこの一枚のてぬぐいで泊り歩くのである。

なんでもない、このおかしな風景に、時代のさびが出て、その「股旅」という世間が感じるカッコ良さとは反対の、貧しさが、この映画の生命であった。



貧しく汚なげな「股旅」の若者たち。
大時代なきまじめさが生命である。

アメリカ映画の「男の出発（たびだち）」が、ぐうぜんこの日本映画「股旅」とよく似ていた。アメリカ映画の「男の出発」は西部開拓時代の、そのころの十六歳くらいの少年が、いっかどのカウ・ボーイになりたくてたまらなく、母ひとり息子ひとりのくせに、母に泣きついて、ついにキャトル・トレイル（牛運び）の牧童一団の仲間に加えてもらう。

ところがその大人の牧童たちも一人としてカッコいいものなどはいなかった。ところで、私はいつも思うのだが、このカウ・ボーイたちは野宿したりしながらえんえんと旅を続けるのだが、オシッコをするところを見たこともないし、もうひとつの方も野原でやっちまうのだろうが、チリ紙などもっているのではあるまい。

そんなことを思っていたときこの「男の出発」が面白いシーンを見せてくれた。そのゲイリー・グライムス扮する少年が林のしげみにはいりこんで、木の葉をパラパラと三、四枚ちぎったかと思うと、ズボンをずり落してしゃがみこんだ。やっぱり彼らは木の葉で、ふくんだなあと感心（？）した。

けれどもこれがアリゾナの砂漠地帯にはいりこんだとすると、彼らは何を使ってふくのであろうかと、今度はそんなことが心配になった。

ところが、ある時ある映画で、牧童たちが、そんな砂漠地帯で食事したあと、ベーコンをフライ・パンでいためた。そのフライ・パンや食器の金属の皿を、どうするかと見ると、足もとの砂を掴んでザラザラと、その砂で洗っているのであった。なるほど、あれで油っけもとって、その砂で洗えばフライ・パンも皿もミガキズナで洗ったみたいに、あとはピカピカになるかもと感心した。

そこで、ひょっとすると、あそこも砂でふきとるのかも。ちょっと痛いよねえ。

市川崑の「股旅」を見ていても、若者三人流れ流れてのわびしい旅。ここで、ふと思ったことは、この若者三人、一度も風呂にはいったのを見たことがない。風呂ぐらいは入れてもらったかもしれぬが、画面には出てこない。いやあの手の爪のアカや、あの汚い、首筋を見ては風呂にははいっちゃいまい。

股旅などというと三度笠にいきに合羽をたたんで肩にかけた二枚目を思わせるが、じっさいは、汚いもんだったにちがいない。

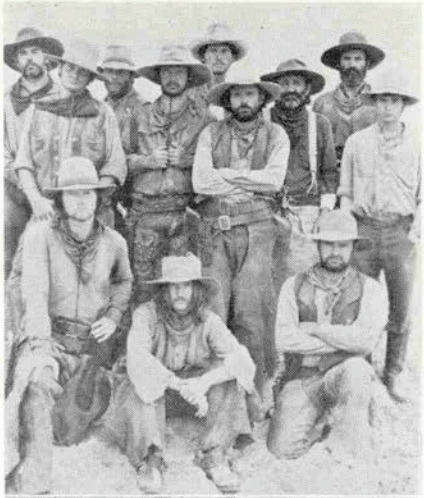
ところでキャトル・トレイルの牧童たちは風呂にははいらない。川だ。川や池を見るとヤッホーッてなかけ声で、服のままジャッブーンととびこんでしまう。それであのテン・ガロン・ハットと称する牧童帽子をバケツ代りに、あれで水をくんではジャーッと頭からかける。

あのビチャビチャの靴や服はどうするんだろうと思う。キッとアメリカ西部の大陸の太陽はきつく、また空気はカラカラにかわいているのであろう。

それで昔見たゲーリー・クーパーの「狼の唄」という映画。このクーパー扮する牧童がメキシコのある家庭に泊ることになった。そこで主婦が〝さあさあ、お風呂におはいり〟そのひと声でクーパー扮する牧童はとび上って驚いた。ホット・バス。あの湯の風呂。おっかねえよ、とんでもない、という表情でその家をとびだした。

家人が驚いて、外をさがし廻ると、向うの林のかげの池の中にとびこんで体をゴシゴシ洗っていた。

あの西部開拓史に伝ったカラミティ・ジェーンは女だてらに年ごろを迎えるまで、ただの一度も風呂にはいらなかったそうである。それでひょっとすると牧童たちは、川を風呂代りに、川をあれの代りに、たれ流し、その川の水であそこもふきとるインド式かも。なるほどカワヤとはそこから。馬鹿！



カウ・ボーイの生活はカッコイイものではない

彼もカウ・ボーイにあこがれたのだが……（「男の出発」より）

女体百景

《11》

H・ジュニア

え・浅野 俊一

蛙女

六月は梅雨の季節、蛙女のことを書きましょう。

この種族は、あまり多くはいません。しかし、少数民族なるが故に珍貴です。

H流体相学によれば、美容食のゼリーなどを好み、普通人が、一切れ二切れ食べるうちに、もう、一皿、全部平らげてしまう、といった女は、もともと男に冷淡で、自己中心的な性格の持ち主といわれています。

しかし、反面、チカチカと、男にほれっぽいことも、スピーディで、自分で、こうと思えば、てこでも動かぬ頑固さは、天下一品と申せましょう。

ちょうど、蛙が、舌を瞬間的に、のばして、虫をとり食するのに似ているところから、蛙女と、体相学では呼ばれています。

そういえば、目もと、口もと、あごのあたりまで、どことなく、雨蛙そっくりなところが、見うけられます。ブヨブヨした青いあのアゴの付根あたり、それは、蛙のあえいでいるのどを思わせて、ギョッとさせられます。

それに、あのキョトンとした異様な目付！それは、大脳に裏付けられた人間の目ではなく、蛙の目です。いしだあゆみの目が、キンギョのそれを思わせるのと同じです。体色が、青白いのは、申すまでもありません。青蛙ですから。特にお腹はまっ白です。なま白く冷たい肌にふれるとき、私は蛙をつかんだ時のあの感触を必ず思いおこします。

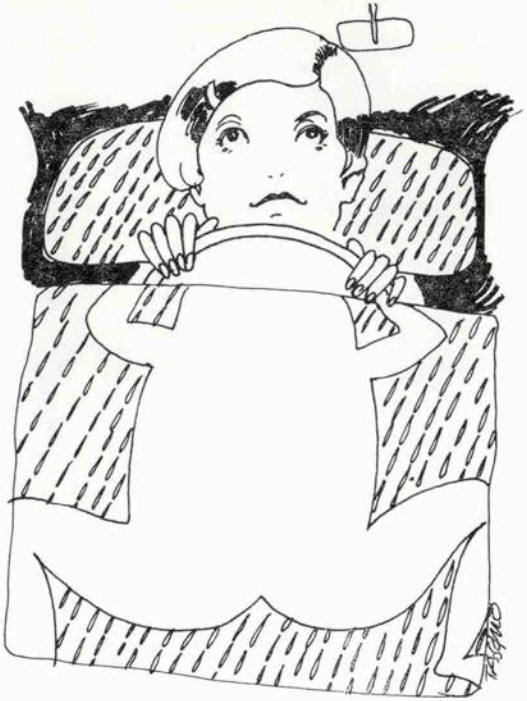
彼女は前世で、蛙だったに違いありません。蛙はへそがないといわれています。彼女のへそも、私の見た範囲では、あるか、なしかの小ささです。つぶれて無いに均しい。髪の毛は、黒々として、割合いに多い方です。陰毛も、普通より、ちょっと多い方でしょう。眉も濃い方ですから。

井の中の蛙と、昔から、いわれているように、自分のからに、閉じこもり、自分の知っていることだけ、知っているといった具合で、広く、知識を自分と違った世界に求めようとするところが、ないのです。自分勝手もいいところです。自動車を運転していても、同乗者のことなぞ、眼中になく、自分の行きたい所へ、どんどん走ってゆきます。割込み、追い越しも強引です。

それどころではありません。対面車線を走りながら「あら、まあ、対面車が来たわ！　来なくてもいいのに、あつかましいわ」〈よけよ、邪魔者！〉といわんばかりの、傍若無人さです。

蛙のお腹は、のっぺらぼんのずんどうですが、彼女も、それによく似た、胴体をしています。あまり極端な体の線の凹凸はありません。

つゆ明けの、雨上りに、露のおりた葉の上に姿を見せたといった風情に、スポッ、ポソッとして、いとも涼しげで、普通の女のように、べたっとしたところがないのは、気持よろしい。だから、中年男には、かわいがられるのですが、若い男には、もの足りなさ、冷たさを感じさせるのでしょう。一線を画して、気をくばる、秘書役



青白い煙を吐きます。二階のバーのあたりは、若者の体臭で満ち満ちていました。

私は、荒々しく彼女を抱きよせ、

「このまま死んでもいい！　これはめて！」

と、私のはめていた男物の指輪を抜いて彼女の手に握らせました。

その年の秋、黙って私は、アメリカへ渡りましたが、彼女は、クリスマス・イブの夜、私をアメリカまで追いかけて来たのです。

私達は、直ぐ同棲生活に入り、その翌春、帰国してからの結婚式の日取りも決まりました。しかし、彼女は、結婚式が近づくにつれて、食欲がなくなり、物想いに沈むようになったのです。

悲しいかな、カエル女は不感症なのです。

「何故、黙っているの？　何か外のこと考えているんだろう？」

「何にも！」

「いや、何か考えてる！　きっと！　何故、そんな顔してるんだい？」

「これが私の顔なのよ！　それがいやなら、別れましょ！　これから長い結婚生活だから、こんな顔も度々すると思うのよ！　いやなら、仕方がないから別れてもいいわ！」

私は、彼女の言葉に従い、別れることにしました。

カエルの目には涙が一杯でした。

〈カエルが泣くから、かーえろ！〉

カエル女と私は、それぞれ淋しく実家へ帰って行きました。

には、うってつけの女といえます。

こんな風に、中年男性に、そのよさが、わかってもらえるタイプの女は、ややもすると、婚期が遅れがちとなり、時には、婚期をいっして、再婚タイプに化する心配が大いにあります。気をつけなければなりません。

※　※　※

忘れもしませんが、その年の志賀高原は、三月というのに一面の雪でした。ホテルの暖炉の火は、あかあかと燃え続けていました。私は、その夜ふけのバーで、始めて、彼女に逢ったのです。

ほろ酔い加減の私は、彼女を、彼女達の仲間から特に選んだのです。彼女にダンスを申し込み、一礼したかと思うと、彼女は、もう私の腕の中に、すっぽり抱かれてステップをふんでいました。

暖炉の火が、時々パチパチとはぜて、火花を散らし、

★小粋なスナック〝シャン・ローゼ〟

サントリークラブがこのたび神戸の山の手、静かな北野町に小粋なスナック〝シャンローゼ〟をオープン。**Schon Rose**は小粋なバラ、という意味の他、ギリシャ神話のヒロインで可憐な美少女の名にちなんだもの。しゃれた洋館のたち並ぶエキゾチックな街にふさわしくシック。君本昌久さんの詩が中央にきまって店をひきしめている。すらりとした美人のママと二人の可愛い子ちゃんがよくおちついたムードで香りゆたかなワインと気のきいたスナックでゆっくりとくつろぎたい方はぜひどうぞ。

神戸市生田区北野町二丁目43、リーハイム1階
☎241―五六五五

シャン・ローゼ店内

★スナック〝サンセット〟の安いコーヒー＋カレー

サンセットと美人のスタッフ

下山手三丁目、キャンティ北店の前にあるかわいいスナック〝サンセット〟では正午から二時の間、カレー、ピラフ、スパゲティのいずれかにコーヒーか紅茶がついて二五〇円で昼食が楽しめる。それ以外の時間だと百円高い三五〇円。

同名の宝石店が西隣りにあり、経営者の安原通夫さんがその名をとって一月にオープンした。

時間は日・祭日を除く毎日午前九時から夜の零時半まで。午後九時からはスナックタイムでコーヒーが二百円。

神戸市生田区下山手通三丁目三二の二
TEL391―四三一一

★竹葉亭で日本料理を

外装がきれいになった竹葉亭で一、五〇〇円で日本料理が楽しめる。

これは奥様やお嬢様方の集いのために特に設けられた献立でクラス会や謝恩会等に喜こばれている。

ただし、一時半から四時半までのサービスタイムで一、五〇〇円の他サービス料等一切不要。

★ジャズも楽しめる豪華になった〝アルバトロス〟

中山手一丁目の〝8番〟の北隣りにアルバトロスが新しく豪華になって六月二十八日オープンする。

マスターの戸井千晶さんは「オーソドックスな英国風の応接室で、今までの雰囲気を少しデラックスにしたのです」という。ジャズ歌手だった滝えり子さん(姉)がピアニストの米田さんの演奏で歌をきかせることもある。水割四五〇円ビール三〇〇円ステーキ二五〇〇円。午後六時～午前二時迄

●神戸うまいもんとドリンキング

★花緑チェーン

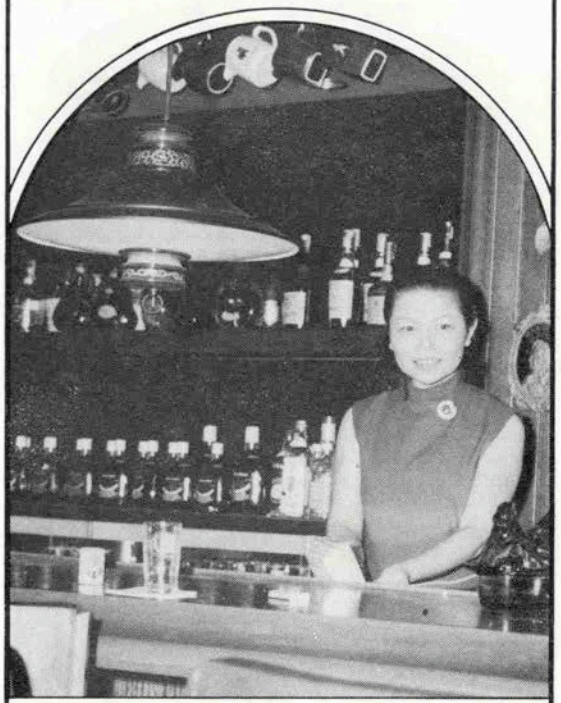
本店
生田区栄町一丁目三
☎三二一―〇三〇六

★コーヒーラウンジ花緑は、オフィス街の真中にあり、昼どきになるといつもビジネスマンで賑わっています。ゆったりとくつろげるソファに腰掛けて冷たいコーヒーをどうぞ。(写真)

★カクテルラウンジ花緑は、夜の十時頃ともなると常連や新顔の誰彼で、奥行きのある店内もいっぱいになり、お相手の美女たちも大いにハッスル。和やかな雰囲気に包まれます。

★レストラン花緑ゼウスは、カウンターとレストランとがあり、落ち着いた雰囲気のなかでワインと食事を楽しみたい方には最適です。

今宵もサヴォイの
カクテルラウンジで…



カクテルラウンジ
SAVOY
サヴォイ

ホームパーティでのカクテルの
作り方を電話でお教え致します。
お気軽にどうぞ
TEL 331—2615
高架山側　テキの店北

初夏の夜
CHISATOの夜
あなたの夜

初夏。夜が艶をおびだすとき、遙かな記憶の彼方の、深い森の奥から、ニンフたちが悪戯っぽく微笑みかける。湖の真ン中で、月がくだけ散ってしまった……。
そんな初夏のひととき、千里へいらっしゃいませんか。

千里

阪本　千里
生田・東門筋東新ビル地階
TEL.(331)4 7 3 0

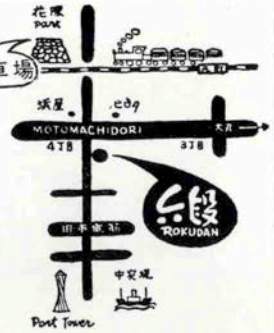
潜り戸を通って
“花„のおふくろさんの味を

和風季節料理　花

さんプラザ地階　TEL 331—0087

営業時間　AM11：00～PM9：00

間遠にはぜる炭の音
馥郁とただよいかける
炭やきの香
どこであれ心ときめけば
そこがあなたのふる里です



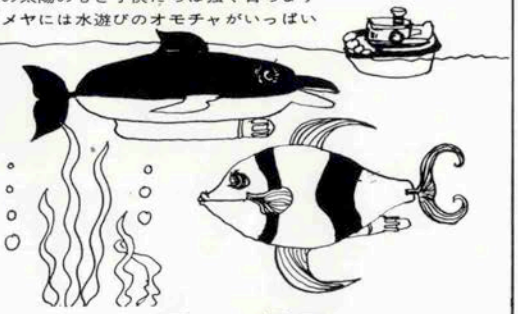
炭やき　ステーキ
しゃぶしゃぶ

六段

元町3丁目・中突堤筋
☎ 神戸(331)2108
12:00AM～9:00PM

STEAK	1,600円より
BARBECUE	600円より
しゃぶしゃぶ	1,800円

夏の太陽のもと子供たちは強く育ちます
カメヤには水遊びのオモチャがいっぱい

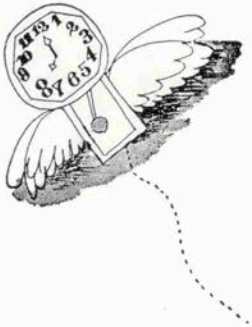


おもちゃの　カメヤ

カメヤ

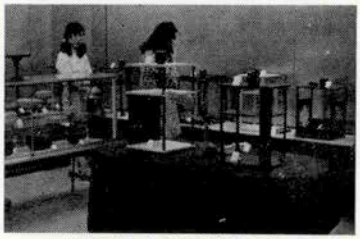
三宮方面でのお買物は……
さんちか店　ファミリータウン　㊐4045
三宮店　センター街大洋劇場東隣　㊐4969
元町方面でのお買物は……
元町店　元町通3丁目山側　㊐0090
パンプウ店　元町通1丁目不二家前　㊐0768

神戸商店会だより



★武野先生蒔絵茶道具店
――淡洲堂ギャラリーにて

去る五月三日から八日に三宮センター街にある美術陶磁器の店淡州堂の二階で武野金霞先生の蒔絵茶道具展が開かれました。



すばらしい作品に魅せられて

鳳凰蒔絵平棗、夕顔蒔絵香合、海浜蒔絵炉縁など、落ち着いた味をもった作品が、約五十点展示されました。

今日まで県下山崎に隠れてわざ一筋に生きてこられた武野先生の第一回個展ですが、茶道の心得がある人ならほしくなるものばかりでした。

★個展会場の無料貸し出し
――元町画廊が計画中

元町穴門筋にある元町画廊から耳よりなニュース。さんちかにある動く歩道の壁面を借り切り、希望者に無料で貸し出す計画を進行中であるとか。すでに三宮地下街株式会社と契約をかわし、画廊らしく新装にかかるばかりとなっています。

個展を開きたい人や若い人の発表の場としてせいぜい利用してくださいと関係者ははりきっています。

★クイーン神戸のパールクラウンをミキモトが発表

真珠のミキモトが、パールをあしらった王冠とミニチュア王冠を、五月十二日から十八日まで大丸神戸店一階に陳列しました。

王冠は黄金のふちどりに純白のパールが鮮やかな千二百万円もするという豪華なもの。ミニチュア王冠は金メッキの銀台に真珠があしらってあり、四十万円というもの。見事なもので頭につけてみたくなります。

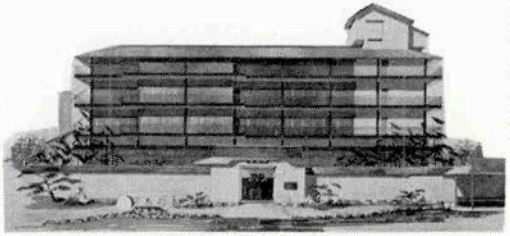
★湯の郷、有馬――「古泉閣」が本館を新築

人々に永く親しまれてきた有馬温泉で唯一の源泉を誇る古泉閣が、新装六階建の客室、宴会場、会議室、娯楽室を完成し、去る四月二十三日オープンしました

ことに日本趣味豊かな六層楼の旅宿、大きな石を重ねた岩風呂が立派で、古泉閣が自慢しているのもうなずけます。

風がわりな浴場で湯あみして、悠久の紫雲に遊べば明日への活力も自然と湧いてくるというものでしょう

TEL有馬（〇七八）九〇四―〇七三一



新装六階建の全貌

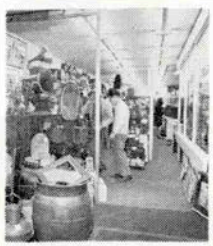
●ショップトピックス

★ゴージャスな毛皮が豊富に取揃えられているベニー毛皮店が、四月に仕入れのためパリへ行きました。ところが毛皮は世界的な傾向として、今年の秋からは約五割から十割の値上りが予想されますでもうれしいことに、五月十日から六月十日の期間中、ベニー毛皮店で「パリモードコレクション毛皮感謝特別セール」があるのです。つまり、値上り以前のお値段で買えるのです。そのうえ、買上品には無料の夏季保管サービスがあるとか。おしゃれな神戸っ子には見逃せないセールです場所―神戸国際会館一階、TEL（〇七八）二二一―三三二七
定休日第一・第三日曜日

★手づくりの味で定評あるゴンチャロフが、五月七日に本社事務所を三宮から西灘工場東側に移転しました。新住所――神戸市灘区船寺通四丁目二番八号（〒六五七）TEL（〇七八）八八一―一一八八（代）

★芦屋にある高級輸入陶器雑貨の店ジョリカセットが、四月二十三日から四月二十八日に在庫処分セールを開きました。スイス・イタリー生地、プレタポルテなど、舶来品がお安いとあって好評でした。

★元町通六丁目にある刀剣・古美術の店元町美術が増築を完成、前の約三倍の店内面積になりました。いままで刀剣武具甲冑が陳列されていましたが、これからは古美術、骨董の品物も豊富に取揃えられるもようで、楽しみです。



広くなった店内

ポケットジャーナル

★〝春の芸術祭〟開催

このたび、兵庫県では〈'73兵庫県春の芸術祭〉と銘うった芸術祭を文化庁・兵庫県・兵庫県教委・開催市の主催で開催することとなった。〈「芸術の秋」ということにとらわれることなく、芸術祭をたえず身近かに感じることによって、今まで以上に心豊かな県民のくらしを期待しようとする〉というのが主旨である。プログラムは次の通り。

能「松風」より

●五月三日（祝）能・狂言　伊丹市立文化会館

●六月一七日（日）バレエ「シンデレラ」（東京バレエ団）　姫路市文化センター

●六月一八日（月）交響楽「チャイコフスキーの夕べ」（大フィル）西宮市民会館

●六月二十四日（日）交響楽「新世界より」ほか（東京フィル）　明石市民会館

●七月一日（月）シェクスピア「テムペスト」（劇団「雲」）　加古川市民会館

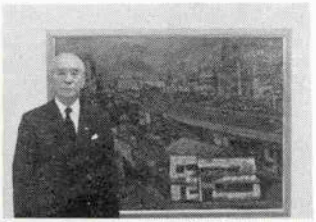
●七月三日（火）文楽「曽根崎心中」ほか（人形浄瑠璃文楽座）　宝塚市民会館

なお詳しくは県庁県民課（〇七八―三四一―七七一一）まで。

★元川嘉津美さん

画業五〇年記念展

神戸在住、一水会委員の画家、元川嘉津美さんが、四月十九日から二四日までギャラリーさんちかで画業五〇年記念展を開かれた。油絵、水彩画、八〇号の大作も含め、三十数点が掲げられたギャラリーは、元川さんの長い作家活動を語り壮観である。「これからが最後の勝負をつける貴重な時期」とおっしゃる元川さんは、絵に対する情熱と真摯さでずいぶんと若々しい。いっそうの活躍を期待したい。元川さんの御住所は葺合区熊内町五丁目六〇。



作品を前に元川嘉津美さん

★三宮青少年センターがオープン

ヤングのサロン、三宮青少年センター（神戸国際会館4F）が五月四日装いを新たにオープンした。

広さ約四百五十平方メートル。

三宮青少年センター

誕生日ありがとう運動

★市民の福祉講座

福祉とはなにか、わたしと福祉とは具体的にどんな関係をもつのだろうか、等、みんなで考えていくために「市民の福祉講座――ほんとうの福祉をもとめて――」をもちます。どなたでも、ご参加下さい。

期日・昭和48年7月27日（金）7月28日（土）

会場・神戸海員会館

定員・六〇〇名

費用・一般千五百円・中高生割引千円（一日のみの場合各々八百円・五百円）

講題・医学からみたちえおくれの問題　神戸大学附属医大院長・黒丸正四郎氏

講師・わが住む里は信楽の町　滋賀県信楽青年喪寮長・池田太郎氏

・福祉社会をめざす人間教育を　神戸大学教育学部助教授・伊藤隆二氏

・発達における経験の役割　京都大学名誉教授・園原太郎氏

・コミュニケーションと愛　映画監督・羽仁進氏

詳しくは、本部事務所にお問い合わせ下さい。

★誕生日ありがとう運動とは

誕生日のお祝いの中から意識的に百円節約し献金する。各家庭で、この問題について話し合う機会をもつ。このことを手がかりとして、わたしたちすべてが精神薄弱児（者）をあたたかく包む雰囲気を広げると同時に、ひとりひとりのかけがえのない生命について思いをめぐらせ、年に一度の誕生日を有意義にしよう、という運動です。

誕生日ありがとう運動本部

神戸市葺合区御幸通八の九の一　神戸国際会館一階（郵便局の前）

（二五一）八一六一内線316

カラフルな色どりの喫茶店風ロビーを中心に、五十人収容の研修室、音楽室、郷土資料を収めた読書・余暇情報センターなどを新設。床は緑のジュータンを敷きつめ、壁はアイボリーホワイト一色とぐっとモダン。

ギャラリーもあれば、ステレオ演奏や映画会も楽しめる。グループでもひとりでも気軽に利用できる。利用料は無料。時間は毎日正午から午後九時まで。但し水曜休館。

お申込みはTEL、251—八一六一、内線四一八番へ直接どうぞ。

★自転車で飛ばそう須磨のサイクリングセンター

五月五日の子供の日にコース開きをした須磨海浜公園のサイクリングセンター（TEL—七三四—〇〇九一）最近は安心して自転車を飛ばせる場所もない上に、バイコロジーブームを反映してか当日は三百台余りの自転車がコースに乗り、順番を待つ長い列ができた。

淡路島を臨む松林の間を縫って走るコースは全長一・六キロ、幼児用の練習コースが別にある。貸出用自転車、ミニサイクル、身体障害者用車イスが用意され、小学生以下なら無料で利用できる。休日には八〇〇人前後、平日でも二〇〇人くらいの子供たちが自転車を駆って楽しんでいるという。

★県彫刻家連盟が甲山森林公園石彫シンポジウム

結成四年目を迎えた兵庫県彫刻家連盟が七、八、九月の三カ月間、甲山森林公園記念広場西で石彫シンポジウムを行なう。

神戸の新谷秀夫氏はじめ十四人が参加し、公園内で制作にあたり、石彫のできあがるまでの様子は記録映画に撮影される。完成した作品は県に納入、そのまま公園に配置され飾られることになる。十月には石彫シンポジウム完成記念の野外彫刻展が公園内シンボルゾーンで開かれる予定。

石彫シンポジウム運営委員会事務所・神戸市生田区中山手通一丁目五〇—一、山手造形美術研究所TEL・二二一—七七八七

★ボクもワタシも彫刻家

去る五月五日の子供の日に、そごう十階屋上スカイランドで「さてなにができるかな？ボクもワタシも彫刻家」の催しものが盛況に開かれた。五月晴れの屋外で紙粘土をもらった子供たちは、それぞれ思い思いの作品を熱心に作っており、ついてきたママたちも何ができるのだろうと楽しそうに見守っていた。審査員の菊川氏をはじめとする六人の先生方も、親切に作品指導にテーブルをまわって歩き、会場全体が熱気に包まれた。

ビッコたち真剣な表情のチ

できあがった作品は恐竜や怪獣があり、ブームを反映していたが、力作ばかり。一つ一つの作品について講評があり、優秀な作品にはそごうから賞がおくられた。この中から将来彫刻家が生まれるかもしれない。

★'73「元彩会展」開かれる

四月二十三日～四月三十日、元町画廊に於て第三回『元彩会展』が開催された。

阪神間を中心として戦前から、時流に乗ることなく、淡々と自己探究を続けておられる会員の作家達。

「作家は精神が強くならねばならない」と熱っぽく語る主催者の佐藤廉氏。

技術本位、今日的であることによってのみ芸術作品

美術ガイド

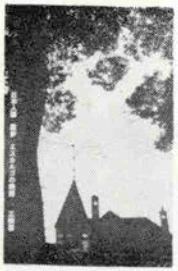
★兵庫県立近代美術館
川端龍子展 5／26～6／24
ユーゴー現代美術展 6／30～7／29
9月まで休館
★白鶴美術館
日本画家連盟展 6／1～6／13
兵庫県日本画家連盟展 6／16～6／24
★南蛮美術館
中尾淳日本画展 6／1～6／6
兵庫県郷土作家具象彫刻小品展 6／8～6／13
★そごう百貨店六階画廊
第三回扇港会日本画展 6／22～6／27
★大丸百貨店美術画廊
水越松南水墨画展 5／31～6／5
各務クリスタルグラス工芸展 6／7～6／12
京画壇新鋭日本画展 6／14～6／19
片野元彦絞り展 6／21～6／26
★KCCギャラリー
山田穂風書画展 5／29～6／4
フォトアルファ作品展 5／5～6／11
塚本茉莉子写真展「影金の美」 6／12～6／18
★さんちか広場
ミノルタ・カメラフェア 6／7～6／12
新協美術神戸写真展 6／14～6／19
第五回六方釜陶芸展 6／21～6／26
中国展 6／28～7／3
★さんちかギャラリー
フォトメンズ・フォトれでいず 5／31～6／5
合同クラブ展 5／31～6／5
近代美術協会関西展 6／7～6／12
久本弘一油絵近作展 6／14～6／19
アトリエ青銅社展 6／21～6／26
中国展 6／28～7／3
★三菱ホームコーナーギャラリー
紬川流谷石展 5／31～6／5
イラスト展 6／7～6／12
ロウケツ染め展 6／14～6／19
版画二人展 6／21～6／26
★安田画廊
グループ協油彩水彩展 6／27～7／2
レイ・ミニ展 6／12～6／17
★新光ギャラリー
朝鮮古陶展 6／10～6／24

のごとく喧伝される今日の美術界にあって作品の奥に、若々しさと、渋さがにじむ展覧会であった。

★俳句は人間の土着詩

「伊丹三樹彦句集」刊

俳句は人間の土着詩、人間採集の詩を唱える伊丹三樹彦氏（尼崎市南塚口町二丁目一ノ二二）の「伊丹三樹彦句集」が、戦後俳句作家シリーズ23として海程戦後俳句の会から出版された。



伊丹三樹彦句集から

この集に収められた作品は一九六八年から七二年迄のもの八五〇句で、旅程のなかから感じる人間性をひょうひょうと詩っている。

やや老いての胃の飢え清ら敗戦日

けものみちなど　いまさら　野山きつねいろ

若者からどんどん挨拶

花粉の森

棒が立って　鴉がとまる

ただ雪野

伊丹氏は「青玄」の主幹。最近は写真に凝っている。

★神戸青年会議所15周年'73トップ経営セミナー

神戸青年会議所が神戸に誕生して今年で15年。これを記念して六月十五日から十七日までの三日間、神戸オリエンタルホテルで「'73トップ経営セミナー」が開かれる。

テーマは「最適社会をめざして」。講師は牛尾治郎、大森実、鈴木清一、田中国夫、小坂徳三郎、黒川紀章力石定一、田英夫、池田弥三郎、市田ひろみ、楠本憲吉、山東昭子、福田赳夫、桜内義雄、加藤寛氏他、経済、文化、行政などの各分野にわたる三〇人が出席、明日の最適社会をめざして話合う。

申込みは、神戸市葺合区浜辺通五丁目二、神戸商工貿易ビル内、神戸青年会議所TEL、二五一―〇〇八五　登録料　三万円

花時計

★神戸再発見

漸くディスカバー論も下火になったようだ。

しかし、思えば不思議に神戸のディスカバー論はマスコミを賑わさないままに通り過ぎたようだ。

神戸まつりも第3回を迎えていよいよ最高潮のきざしを見せはじめた。

東灘から垂水に至るまで、各地域にわたって熱が次第に高まっている。

勿論、中央行事にあっては第3回目とあって順調に祭りの当日を迎えようとしている。後は、祭り当日の好天を祈るばかりだという。

神戸市民が楽める祭りを目指して誕生した、神戸カーニバルとみなとの祭が合併して生れた神戸まつりだが、思えばこの神戸まつりにはみなとの祭の伝統がまったく流れていないとはいえない。

みなとの祭の再発見が神戸まつりとなって爆発したと見てもいい。

また、空論、ディスカバー神戸でなくて、実践で見せた再発見である。

こういった、本来の神戸文化の伝統をもう一度ていねいに掘り返して見ることも大切だろう。

そこに、神戸のファッション都市への道もつながってくると思われる。実践つきの再発見というのはどうだろう。〈Y〉

KOBE POST

★社団法人"市民同友会"、"市民の学校"の新事務所が、神戸市葺合区小野柄通五丁目13ノ2番地北村ビル2F☎231／3251に、三月二十三日より移りました。

★五月二日、サンケイホールで、関西歌劇団によるオペラ「コシ・ファン・トゥッテ」が上演され、**朝比奈千足**さんが、オペラの初タクトを振られました。

★書家の**村上翔雲**さんが、神戸市垂水区神陸台三丁目二番明舞北センター住宅四棟三〇五号☎783／347へ転居されました。

★建築家の**安藤忠雄**さんの研究所が、大阪市東区南本町5丁目8ドムビル6F☎252／5066へ移転されました。

★**松本奉山**さんは、五月十五日～二十日、銀座三越で「水墨画展」を開かれました。

★書家の**筐月美佐**さんは五月十八日からドイツのケルンで展覧会を開催。そのあとスイス、ベニス、パリ、カイロなどを回り、七月一日帰国予定。

★株式会社明盛の**長谷川進**さんがこのほど円満退社され、総合商社S&T商事を設立なさいました。事務所は生田区北野町四丁目四九の二、スカイビル☎241／〇六七一

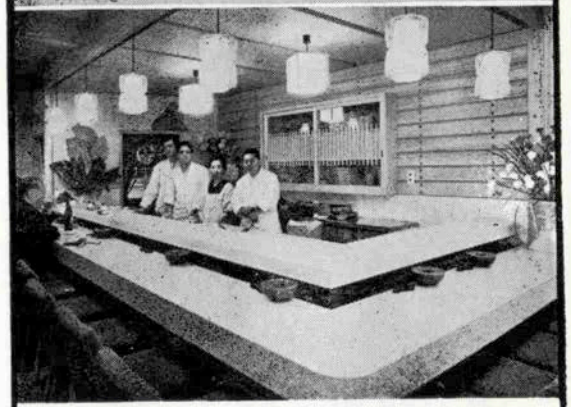
★造型作家の**植松奎二**さんは「ジャパンアートフェスティバル」で優秀賞をうけられました。

★神戸国際ホテルの**郡司茂**社長は三月三十日をもって退任され、新しく四月一日より取締役会長に、**玉井操**氏が、取締役社長に**山本孝**氏が就任されました。

★演出家の**岡田美代**さんは、葺合区役所広報課から、このほど、神戸文化ホール担当になられました。

仮事務所は、神戸市生田区楠町五丁目三四ノ一☎371／一四四〇

ゆったりと落ち着いたスペースで
新しい“味”をご賞味ください。



鮪の又平

神戸三宮生田ノ社ノ西
電話・三の宮　(331) 0935

元祖 焼肉 紀六

おいしさが
口いっぱいに
ひろがる……
本場の味

■三宮センター街柳筋店
TEL　321—3446・331—0572
■新開地店
TEL　576—1191
■平野店（平野市場内）
TEL　361—0821
■三宮センター街サンプラザビルB₁
TEL　391—3793

オリジナル L サイズ

草履新発売

創業明治二十五年

履物の山下

古い老舗に新しいセンス

確実正札　完全冷暖房

静かに品選びの出来る店

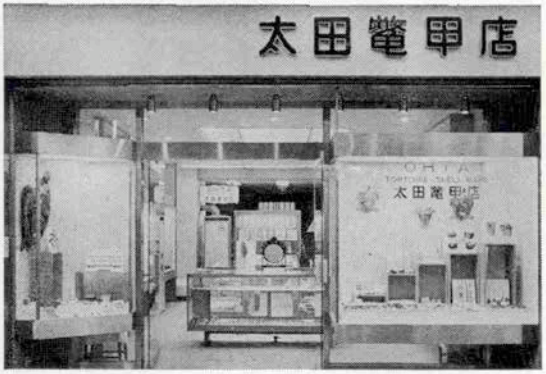
神戸三宮センター街　TEL(391)0256

ハイセンスの紳士服で最高のおしゃれを！

三恵洋服店

元町4丁目　TEL(341)7290

GREEN KOBE SHOPPING



べっ甲美術品とアクセサリーの専門店

太田鼈甲店

元町1丁目　TEL(331)6195

Mr. Kent

came to Kobe

流行に左右されない

本来のオシャレ

それがKentです

シックな

スコッチ風の店舗

それがFunakiyaです

Kent shop

フナキヤ

元町3 TEL(321)0356

高級紳士服専門店

神戸テーラー

さんちかメンズタウン　TEL(391)0388
生田区北長狭通2(阪急西口)TEL(331)2817・3173

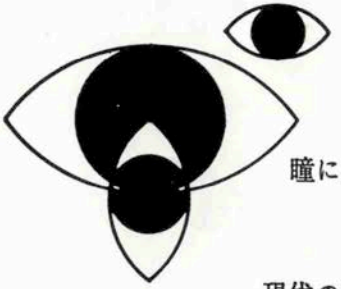
おすし
てんぷら
榮彌

本店　大丸前・三宮神社東
TEL(331)5772
5673～4
(毎週水曜日休み)

支店　さんちか味ののれん街
TEL(391)5233
(第3水曜日休み)

営業時間
A.M.11.30～P.M.9.00

GREEN KOBE SHOPPING



瞳に美しさを保つ
スポーツに
美容に
現代の科学が生んだ
コンタクトレンズ

日本コンタクトレンズ協会会員
国際コンタクトレンズ研究所
神戸市葺合区御幸通八丁目九ノ一(三宮駅前)
神戸国際会館内　TEL(251)8161・(231)2570

やっぱりうまい
むさしのとんかつ

とんかつ

コーベ・三宮
ムサシ

でんわ・331—三七七一
321—〇六三四
321—〇六三五

□連載小説

異人館物語〈11〉

ジェームス山哀歌

小山牧子
え・石阪春生

あらすじ 明治時代といえば多くの異国人が神戸に移り住み、西欧文明を背にして活躍した頃だが、E・W・ジェームスも数少ない相場師の一人で、兵器売込みでもうけた金で塩屋の山を外国人居住区として開拓していった。そしてジェームスの雇用人の中に、ジェームスからひときわかわいがられた中井ふさの姿があった。ふさは第二次大戦で国外追放となったジェームスの代りに彼の残した財産を守りぬく決意を固めたが戦争が激化するにつれて彼女は同胞の敵意にかこまれ、深い坐折感を味あわねばならなかった。

戦後、日本に帰ったジェームスは戦争で手のほどこしようもなく荒廃したジェームス山の復旧に全精力をそそぎこんだ。そして年老いた老妻を失ったジェームス老人のそばには妻の代りに彼にぴったりと寄りそうふさの姿があった。しかし長い屈辱と孤独の日を耐えてきたふさに訪ずれたしあわせの日々も長くは続かなかった。邸宅を買い与え、ふさを頼って通ってきていたジェームスの突然の死――驚いてかけつけたふさに周囲の目は冷ややかにそそがれ、引き裂かれるような別れとなった。

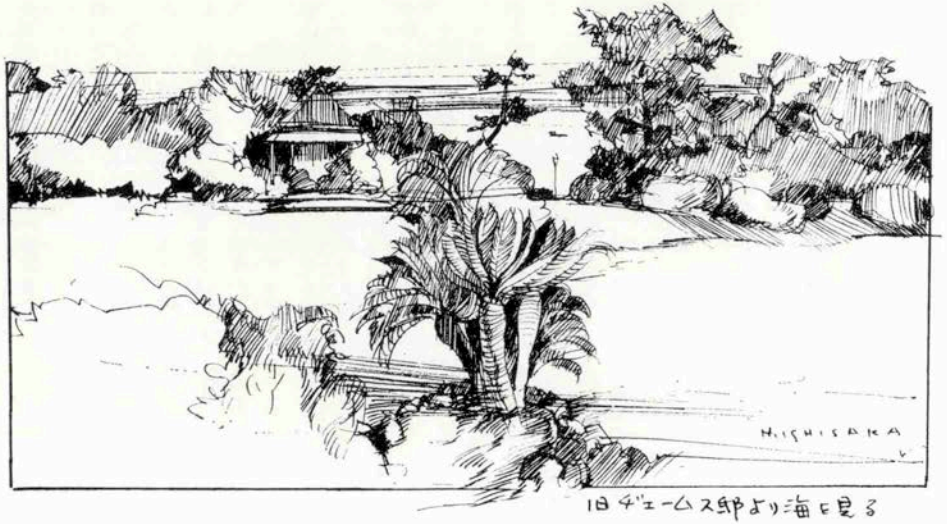
E・W・ジェームスの突然の死によって、中井ふさが半生の忍耐と献身によってようやく手中におさめたバラ色の老後は、無残に断ち切られた。

父急死の報を受け、あわただしくカナダから駈けつけた二人の娘が、母なきあと、老父の伴侶としての中井ふさを強く拒否し、ほんのおこぼれほどの遺産も分配しなかったのは、有色人種に対するイギリス系カナダ人がもつ選民意識からだけではなかった。彼女たちは、もとの雇主に忠誠を誓う故ジェームス老の支配人、E・H・ジョンソンと共に、日本の財産相続に関する税法に泣いた被害者だったのだ。

というのは、この時、ジェームス老の遺族が故人の財産を相続するために九千万円以上の税金を日本政府に支払わねばならなかったのである。ジェームス山のアクセサリーとして置かれた例の獅子像の評価が十万円で、課税額はなんと六万円というべらぼうさだった。

彼等が直面した日本の税法の不条理について、その後、日本に永住することになったジョンソンは、かって英文毎日に連載した「ジェームス山の明暗」の中で次のように著述している。

『おそらく人類が初めて放浪しはじめたとき以来、人はその友人達に海外で生活するに当っての危険を話すのが例となっている。だが私は、日本在住の外人であって、日本生活の危険をよく口にする人達が、とりわけ最大の危険であるに違いないこと、つまり彼等がここで死ぬ可能性があり、その場合、彼等の全世界にある所有財産が、戦後、実に六〇%前後という高率になった日本の課税の対象となる可能性があるということを、いつも見過



旧ジェームス邸より海を見る

「アナタ、何スル人デスカ？」

流暢な日本語でやさしく問うて下さったまではよかった。で、当方、大いにハッスルし、それに少しは得々と、一語一語に力を入れて、

「私、ジェームス山のストーリー書きます。私は、え……と、ノベリスト（小説家）ネ」

と、筆者の悪ノリ気分をぴしゃりと断ち切るように、

「ワタシ、ソレ嫌いです、ドウモ……」

ガチャンと電話が切れそうになった。当方は周章狼狽

「ジャスト・モーメント（一寸待って）ミスター・ジョンソン。それはどういう意味ですか？」

「ワタシ、ヒストリアン（歴史家）好キデス。ケレドモ、ノベリスト好キアリマセン。ナゼナラ、ノベリスト嘘ヲ書キマス。少シモ勉強シナイデ、足リナイトコロ全部ウソニシマス。ダカラオ会イシタクアリマセン」

「なァるほどォ……」

今度は、本当に電話がガチャンと切れた。

あっけにとられながらも、筆者はこの老人の正直さに共感と好意をもち、同時に思ったのである。

——まったくだ。私も小説家なんて大嫌いだ——と。

偏屈でケチで意地悪。彼の周辺に住む日本人は、彼のことをそう評する。が、その卒直さのゆえに、彼の噂話に興じる人には、頬のあたりがむずむずしてきて、いつか自分が表情をなごませたりニヤついたりしているのに気がつくのである。そして聞くことに熱中している相手の表情もまたいきいきとして、口のあたりに「どないもしゃァないオヂンやなァ」といった時にみせるあの笑いの相を作っているといったあんばいなのである。

そうだ。E・H・ジョンソンは、欠して悪辣な男ではない。集中力があり、強靱な精神の持主である彼は、ジェームスの支配人という仕事以外に、世界的に著名な歴史家としての、もう一つの確固とした人生をもっている。彼の人嫌い、ケチ、偏屈は、この老人のもう一つの残り少ない生の世界を守り抜くために、俗人たちにみせるしているように思われることに気付いた……』

ジョンソンという人は、皮肉屋であるらしい。毒舌家で、テコでも棒でも動かぬ頑固ヂヂイであるらしい。

事実、筆者が故ジェームス老の周辺について取材に協力してくれることを電話で懇願したところ、この老カナダ人、

惨憺たる闘いの姿なのである。

が、この熱くたぎる心をもった老人の旧主人ジェームスへの忠誠心には、中井ふさという娘時代からジェームスに献身的につかえてきた日本の女を受け入れる余地はなかった。

小説家は嫌いだと決めた以上は、絶対に面会を拒否するのが身上であるように、日本の女である中井ふさが、大切な主人、後には協同経営者の情婦であってはいけないと自分の頭で考えた一つの道理は、撤頭撤尾つらぬかねばならないのだ。

このジョンソンの意志の前には、ふさの人生のすべてを賭けたジェームスへの献身と愛の証しは無根のものとして消し去られてしまう。ジョンソンにとって、中井ふさへの故ジェームス老の遺産の分配など、とんでもない話。老人が生前ふさに与えた遺産分与の口約束を実現させようと、人を介して彼にせまっても、

「ジェームススサン、ソノコト、何モワタシニ申シマセンデシタデス。ソレニ、中井フサ？　ワタシ、ソノ人ノコト覚エアリマセンデス」

と、とぼけてしまうのだからどうにもならない。

更に、当時の金額で、父親の遺産から九千万円の相続税を日本政府にふんだくられて頭にきたジェームスの娘と二人に好意をもつジョンソンは、ジェームスが生前ふさに与えた山頂に近い邸宅をも、ふさが所有しているのを不当なことと思いはじめた。が、この邸宅の名義は、すでに中井ふさのものになっている。得体の知れぬ日本の女がジェームスの財産を横取りしている。そう思いこんだジョンソンは、ふさにその邸宅の返却を要求してきた。

「アノハウスハ、ジェームススサンガ、日本ノ政府ノキビシイタックス（税金）カラフリーニナルタメ、形ダケ中井フサノ名義ニ登録シタノデス。ダカラ、ジェームススサンイナイコノ時、彼ノ愛スル二人ノドウター（娘）困リマス。スグニオ返シスルコト、正直ノ人ラシイデス」

このジョンソンの返却を要求する根拠は、ジェームス老なきあとは実体のあるものではなく、法律は中井ふさに味方した。

とはいえ、法律的に勝目がないと知っても、ジョンソンの邸宅への執着は去りがたく、中井ふさの執着もまたジョンソン以上に強かった。

――この屋敷は、ジェームス様の情の証しや。わたいがあのお方のために生涯をささげたそのことの証しや。その証しである屋敷を取られてしもうたら、この身は無いも同じや。

とまで思いつめるふさである。

何年も、ふさはその山頂の館で過ぎた日々、ジェームスから与えられたほんのわずかなやさしさをも鮮明に思いだしながら、館にへばりつくようにして生き続けた。

年々の花の季節、緑の季節がめぐってきても、ふさの館の周囲だけが、なぜか冬枯れたさまで、褐色に風化した印象を人々に与えた。そして、いつからか塩屋近辺に住む人々は語りはじめていた。そこに、死んだジェームス老人の姿が、古い木の株かなにかのように老い朽ちようとしていると……。

ジェームスの死後、山の管理はしばらくジョンソンにまかされていたが、彼はこの華やいだエピソードや風説に彩られた日本の女が醜い老いをさらしながら山頂の館に住み続けることを、依怙地に嫌った。否、それ以上に、中井ふさを彼等、外国人が居住するテリトリーへの無法な侵入者と見なしたのである。で、さまざまな手段で中井ふさの追出しを策したのであるが、その中でふさに決定的な打撃となったのは、山頂の館への給水をストップさせたことである。

水の渇れた館に住むことはできない。が、ふさはそれでも館を離れなかった。

「この屋敷を離れたら、わたいは負けや」

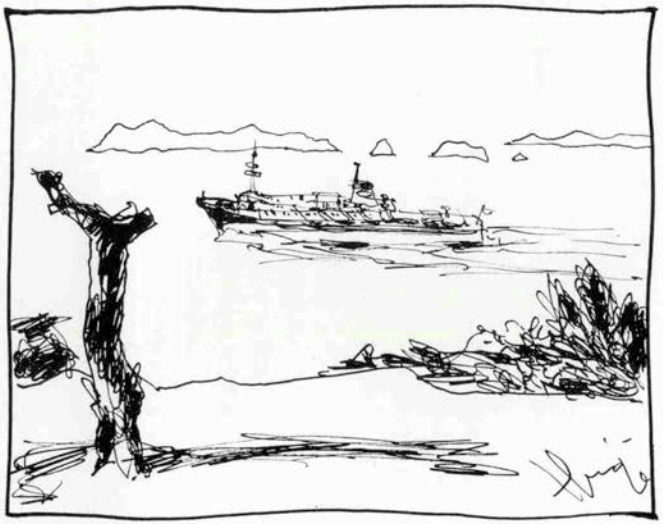
山の麓から、命がけな顔をして、毎日の用水を運びあげるふさに、それまでやっかみと蔑視が相まじり、ふさ

を心よく迎えなかった人々の同情が集まりはじめた。
「あれこそまさに、神戸の唐人お吉やでえ」
「可哀そうに、これやから毛唐なんかに惚れるもんでないねん」
「一体、あのジョンソンゆうエゲレス人、人間らしい紅い血が体の中に通うたあるんやろか？」
話に興じている間に、彼等はまるで、迫害されているのが自分たち自身であるかのような錯覚におちいり、その迫害の張本人であるジョンソンを憎み、彼の属する国や民族自体に猜疑の目をむけはじめる。と、こんな時にはいつもしゃしゃりでて賢げにふるまう理屈コキもいるのであるが、連中の口調がえてして関東弁、それもベランメエの巻き舌とくるからまた突飛なのである。
「毛唐の中でも一番、血も涙もないのがイギリス野郎だよね。大体、世界の歴史を再検討してみろってんだ。バイキングが活躍した昔からイギリス人のゆく所、殺戮の嵐が吹かない所なしだよ。あいつらの先祖ときたら、世界のいたる所にでかけていって原住民を家畜並にぶち殺して、土地も資源もみな取りあげてきたんだ。日本などその被害をあまり受けてなくてむしろ幸福と思わなくてはねえ。おフサさん一人が泣かされたからって、体制に影響なしだよ」
とんだ抽象論にまで発展してゆくのであるが、この御仁、世界の歴史だなんてたいそうなことを例に引きながら、実はあちゃらの活劇映画のファンだったのかも知れない。
ともあれ、バケツ一杯の水をもってあえぎながら山路を登るふさを見かねて、山麓に住むふさの肉親は、自分たちとの同居をすすめたが、ふさはその好意を拒んでいった。
「御親切はありがとうおますけど、あの屋敷はジェームスの旦那さんがわたいに残してくれはっただけ一つのもんだす。死んでも明け渡すことはできまへん。あの屋敷がなかったら、ジェームス様がわたいを好いてくれはったことも夢かまぼろし、この身はとりとめもおまへん」
水の渇れた館一つが生命よりも尊い証しになる絆。ふさにとっては、なんとはかない異国の男との縁であったことか。まさに、ラシャメン哀歌である。
過ぎた日の愛に執着する女の心は悲しいもの。その身が逆境に置かれれば置かれるほど、甘美さにみちた過去の記憶を大切に抱きしめようとする。そして、ふさの慰さめは、いつもジェームスの追憶にひたること、ある時は、決して返らぬ問いを、彼岸にあるジェームスに投げ続けるのだった。
「あのようにおやさしい言葉をかけて下さった旦那様、老人とは思えぬ強さで愛撫をお与え下さった旦那様。見ておいでなさいますか。ふさのこのみじめな姿を。あの鬼のジョンソンが申しました。旦那様はふさのことなど一度も女としてかえり見てくれはったことはないと……。どうぞ違うとゆうて下さいまし。旦那様はたしかにこの女に深いお情をおかけ下さいました。あなた様がお逝きになったあとの老後も決っして心配するなと力強くゆうてくれはりました。それなのに、なぜ？　ふさはこんな不当な扱いを受けんなりまへんのか？」
いまは、生前のジェームスがふさにいったなにげない言葉や仕種の端々がふさの暗い心のレンズを通じて愛の証しとして拡大され、その原型は見失われている。そして、ジョンソン老人は、ふさの意識の中だけで異常に拡大された愛しあう二人の絆を引き裂いた鬼、ふさは終生、このケチでヘソ曲りなE・H・ジョンソンを怨み続けた。
（つづく）

連載小説〈40〉

曲線ハイウエイ

武田繁太郎
え・横塚繁



〔あらすじ〕東名高速サービスエリアで**多木洋介**は神戸の女性**宇津康子**と知合い、逢瀬を重ねるうちに康子にひかれていった。ある日友人**岡本和彦**と共に神戸へきた多木は康子に会えず、彼女の面影に似た**辰野英子**を紹介され、六甲山へドライブに出かけた。ロマンティックな情景に誘われて英子を抱きしめた多木の胸に、初めて感じるいとおしさがつのり、その夜二人は愛しあって別れた。

そんな時突如として康子から電話があり、多木と康子は二人の愛を確かめあった。翌朝、風のように去っていった康子を追い神戸にきた筈の多木は、岡本の早呑み込みと神戸の雰囲気の中で英子を捜している自分に気付いた。英子をみつけた多木は淡路島へのドライブに出かけたが、その帰りに中年の男と寄りそって歩いている康子を目撃した。その衝撃を負って帰京した多木のもとに康子からの屈託のない電話が入った。十日間の休暇をえた多木は、北海道へのドライブに康子と出かけ、札幌から海岸沿いの国道を通り、さいはての村島牧に向った。その村は、難病にかかった象の花子が温泉で闘病していることで、かつて新聞に報道されたことがあった。

宮内温泉についた二人は、花子を見舞い、花子の世話をしているS氏と親しくなった。

象の花子の家を辞すと、二人は、クルマで村内の見物にでかけることにした。

この村は、村内のほとんどが山と高原とで占められ、平地は、わずかに海岸ぞいにあるだけで、その狭い平地に人家が散在し、国道がのびていた。

泊川ぞいの林道をくだって、村役場まえの国道にでると、多木は、

「村のはずれの茂津多岬までいってみよう」

と、クルマを西のほうに走らせた。

泊川は、東の弁慶岬から西の茂津多岬まで、約五十キロもある長い海岸線のほぼ中間にあった。だから、泊川から茂津多岬までも、二十キロ以上の距離があった。

クルマは、海岸ぞいの国道を、いくつかのトンネルを

抜けながら、突っ走っていった。道は、未舗装の個所が多いが、往き交うクルマの数は少ない。いかにもうらがれた国道といった感じだった。

「でも、このへん、部落の名前がいいじゃないの」

康子は、道路標識をながめながら言った。

役場のある泊の部落をすぎると、原歌だの、植車だのといった、ちょっと風変りな、なんとなくロマンティックな感じを与える部落が、つづいていた。

どの部落も、二、三十戸ほどの戸数で、雑貨屋のような店が一、二軒あるだけ、食べもの屋や呑み屋のような店は、一軒もみあたらなかった。わびしいたたずまいである。

はるかな沖あいを、大型フェリーらしい船が、ゆっくりと西へむけて走っていた。

「あれは、小樽から舞鶴へいく新日本海フェリーだろう」

多木が言った。島牧の東に、シャコタン半島が大きく日本海に突きでている。小樽は、さらにその東側にあった。だから、小樽を出港したフェリーは、シャコタン半島の突端を迂回するため、島牧の四、五十キロも沖あいを通ることになるのだろう。

視界のとどくかぎり、フェリーのほかには、一隻の船のかげもみあたらなかった。いまは出漁の時刻ではないのか、漁船もでてはいない。

はてもなくひろい北の海に、とおく陸からはなれて、たった一隻、ぽっつりと浮んでみえる船の姿もまた、沿道の風景と同様、わびしいかぎりであった。

「だけど、こういうわびしさが、この秘境の地の魅力かも知れないわね」

康子が独りごとのように言った。

「ああ。あれだな。Sさんのところにあったジャスパというのは」

多木が、海岸の波うちぎわのあたりをながめながら言った。

「なるほど。きれいな石ね」

「ちょっと、みてみようか」

二人は、国道の端にクルマをとめて、だらだら坂になった海岸へおりていった。

「こりゃ、みごとだ」

国道のすぐ下からつづいていた砂浜が、なぎさから十メートルほどのところで、いちめん小石の群れにかわっていた。それも、ただの小石ではなかった。白、青、藍、茶、薄赤と、さまざまな色をした小石が、なぎさにそって、一キロ以上も海浜をうずめていた。

さっき、Sさんの部屋に、瑪瑙のように、帯状の美しい色模様にかがやく小石が、いっぱいあった。

「これ、きれいな石ですね。瑪瑙みたいですね」

多木がたずねると、S氏は言った。

「ああ。これはね、この辺じゃ、ジャスパって呼んでいる石なんですよ。島牧の特産かも知れませんね」

「ジャスパ？　名前もすてきね。このまま、アクセサリーに使えそう」

「ちょっと宝石みたいでしょう。ここの海岸には、いっぱいありますよ。色と形のよさそうなのを拾ってきて、磨けば、こうなるんです」

と、S氏は教えてくれた。そのジャスパが、いま、二人の足許をうずめているこの石の群れだった。

多木は、潮水にぬれている小石の二つ三つを拾いあげてみた。まだ原石なので、表面は多少ざらざらした感じだったが、これを丹念に磨けば、あのすべすべとした、美しい光沢のジャスパになるのだろう。

「都会の人たちが知ったら、大さわぎをして、とりにくるわね。きっと」

「うむ。たちまち、観光名物になるな」

だが、いまはまだ、この美しい小石たちも、秘境の海に眠ったままだった。

このあたりの海岸にも、奇岩、巨岩の群れがつづいていた。千畳敷きのような平たい岩が、さざ波に洗われている個所もあった。

茂津多岬をめざすクルマは、白い灯台のある、かわいい岬のそばを抜けた。標識に木巻岬灯台とあった。水の豊富な土地柄だといわれるだけあって、名も知らぬ小さな川をいくつも越していった。

やがて、栄浜漁港という、突堤が一本だけある漁港を通り抜けると、白糸岬という岬にでた。このあたりから、沿線のたたずまいは、荒々しさをまし、人家もまったくとだえ、陸の孤島といった感じが濃くなってきた。

国道は、未舗装のまま、なおつづいていたが、もうすぐ茂津多岬と思われるあたりで、一般の車輛は通行禁止になっていた。

「このさきは、まだ工事中なんだな」

多木は、行手にそそり立つ断崖のあたりをながめて言った。そういえば、断崖の下に、人のいないブルドーザーがとまっていた。

つい一、二年まえまでは、さっき通ってきた栄浜漁港から、この先きの茂津多岬の突端をまわって、瀬棚という町まで、道はなかった。つまり、この島牧村が、東からのびてきた国道の行き止まりであり、この村は、いわば地の果てだった。だから、島牧は、北海道の開発から取り残された、過疎の村になってしまったのである。

「だけど、茂津多岬の道路が完成すれば、この秘境の地も、たちまち、新しい観光地として脚光をあびるだろうな」

多木は、その日のくるのを確実に予測できるように言った。

二人は、クルマを捨てて、海岸の小高い丘のうえに立ってみた。

「この辺なのね。日本で、シベリアにいちばん近い場所というのは」

康子は、茫漠たる日本海の彼方をながめながら、感慨ぶかそうに言った。

S氏の話では、茂津多岬がシベリアの沿岸と最短距離にあるという。なるほど、ここは、文字どおり、日本のさいはての土地だといえた。

むろん、海のはては、灰色の空と融けあって、とおくシベリアの山なみなど、望むべくもない。さっきみたフェリーも、もう通りすぎてしまったのか、かげもかたちもなかった。陸も海も、多木と康子の二人以外には、まったく無人の世界だった。

「だけど、不思議なものだなあ。シベリアにいちばん近いというこの海岸に立っていると、なんとなく、あのシベリアの大陸が、ほんとうに身近なものに感じられる」

多木も、しみじみとした口調で言った。そのことを、実感として味わうために、はるばるここまでやってきたような思いだった。

「でも、すてきね。ここ」

「うむ。ぼくも気にいったよ。ここの風景」

二人は、丘の一角に、ならんで腰をおろし、あかずあたりをながめやった。

海といい、海岸にそそりたつ巨岩の群れといい、背後に迫っているけわしい断崖といい、すべてが、いちだんと男性的な荒々しさにみちていた。ここは、この秘境の村のハイライトだといえただろう。

だが、静かだった。風もない。波もない。人かげもない。音の世界から完全に遮断されたような、怖ろしいほどの静謐が、二人をつつんでいた。身も心も、この静謐のなかにひきこまれてしまいそうである。

「こうして坐わっていると、いつまでも、ここから動きたくなくなるような気がしてくるな」

多木が言うと、康子は黙ってうなづいた。彼女もまた、おなじ思いだったのだろう。

これが、自然というものの姿なのかも知れなかった。都会育ちの二人は、ほんとうの自然というものを知らなかった。自然のほんとうのちからを知らなかった。

多木は、自然の金縛りにあって、いまはじめて、その実体の一部にふれたような思いであった。そこには、麻薬のような妖しい魅力さえ感じられた。

「もう東京なんか逃げだして、ここに住みたくなったな」

「どうかな？　一週間もすると、退屈になって、また東京へ逃げかえりたくなるんじゃないの？」

「君なら、どお？」

「あたし？あたしなら住めそうだわ」

「じゃ、ぼくだって住めるさ。どうだい？二人で、この村に住もうか。なにもかも捨てて。いつまでも」

多木は、冗談とも本音ともつかぬ口調で言った。

だが、康子は、こたえなかった。彼女は、ゆっくりと立ちあがっていた。

「この浜には、ジャスパはないか知ら？」

康子は、丘の道をくだって、なぎさのほうへ歩んでいった。

その後ろ姿に、多木は、ふと、二人の愛の果ての姿を垣間見るように思えた。

（つづく）

〈神戸の催し物6月ご案内〉

＜音楽＞

★青江三奈ショー
6月5日（火）PM6：30～8：30　神戸国際会館
民音　会員制　¥1,000

★森山良子リサイタル
6月10日（日）PM2：00～4：30　神戸国際会館
神戸労音　会員券

★ビリー・ボーン楽団神戸公演
6月11日（月）PM6：30～9：00　神戸国際会館
A¥2,800　B¥2,400　C¥2,000

★スタン・ゲッツ・カルテット
6月17日（日）PM5：00　神戸国際会館
S¥3,000　A¥2,500　B¥2,000　C¥1,500

★大阪フィルハーモニー交響楽団〈チャイコフスキーの夕べ〉
6月18日（月）PM7：00　西宮市民会館ホール
入場料　A¥1,000　B¥800
指揮／秋山和慶　独奏／田原富子　曲目／大序曲「1812年」
ピアノ協奏曲第1番　交響曲第6番「悲愴」

★ミッシェル・ポルナレフ
6月19日（火）
PM7：00～8：00
神戸国際会館
民音会員¥2,000　¥1,500
一般¥2,500　¥2,000

★朝比奈隆・大フィル「運命」
6月29日（金）
PM7：00～9：00
神戸国際会館　民音　会員¥1,000　一般¥1,400

＜演劇＞

★波濤・劇団はぐるま座
6月4日（月）　PM6：30　開演　神戸国際会館
前売A¥1,400　B¥1,000　学割　¥600
作／劇団はぐるま座創作集団　演出／日笠世志久

★日本K.K.幻想曲（俳優座）
6月12日（火）、13（水）、14（木）PM6：15～9：00
神戸国際会館　労音　会員券
出演／福田豊土　大塚道子他

★二つの月曜日の思い出・演劇集団銅鑼
6月28日（木）29（金）PM6：30　神戸文化小ホール
神戸　労音例会
作／アーサー・ミラー　演出／早川昭二
出演／鈴木瑞穂、信　欣三、山田昭一、今村享子

★すわらじ劇団神戸公演
6月30日（土）①PM1：00～4：00
②PM5：00～9：00　神戸国際会館

★夜の来訪者・道化座ノイエのいえ公演
5月12日～7月1日　開演　土曜PM6：30
日曜PM1：30
原作／J.B.プリーストリィ
出演／阿木五郎、須永克彦、甲斐卓雄、大川きよし他

〈その他〉

★今岡頌子舞踊公演
6月21（木）、22（金）PM6：30　芦屋ルナ・ホール
今岡頌子舞踊団　入場料¥2,000　¥1,500
演出／庄司　裕　美術／板坂晋治　衣装／前田哲彦
津軽三味線／高崎竹山　笛／藤舎推峰

★山吹実舞踊発表会
6月24日（日）AM9：30～PM8：00
関西山吹会　無料　神戸国際会館